美術教科実践レポート

全学年美術

「対話する授業への取り組み」

授業者　岸本　和幸

≪研究実践のポイント≫

対話や議論することを通して、自他の考えを比較検討し、考えを深めたり広げたりすることで授業のねらいに迫る

１．アイデアスケッチに対話を組み込む

昨年度の研究で、1 年生の絵文字の授業において発想・着想の段階で悩む生徒が多く、その場面に対話を設定すれば他の人の意見に対して対話が生まれるのではないかと、研究してみた。

それまでの鑑賞の時間を利用した対話よりも生徒が主体的に対話できたと実感できた。しかし、友達の意見をうのみにして作品をつくる生徒もいて、評価する際に発想・構想の能力が育成されていないのでは、という不安もあった。

今年度は全学年に取り組みを広げるために、ポスターのアイディアスケッチの際に対話を取り入れることでポスターの重要な役割である、「人の目を引き付ける」「みる人にテーマを伝える」についてアイディアを広げ、深めることをねらいにした。

２．対話を生むアドバイスタイム

発想・構想の能力を育てるためにも、まずは自分で基本的な構想を立てさせる必要がある。個人思考の時間をしっかりと確保した。そうしていると自分の作品を人に見てもらいたくなる。私語が増える。ここがチャンスだが、「もうちょっと我慢して。後でアドバイスタイムをとるからね。」と言って我慢させる。全員のアイデアができあがってからアドバイスタイムを実施した。

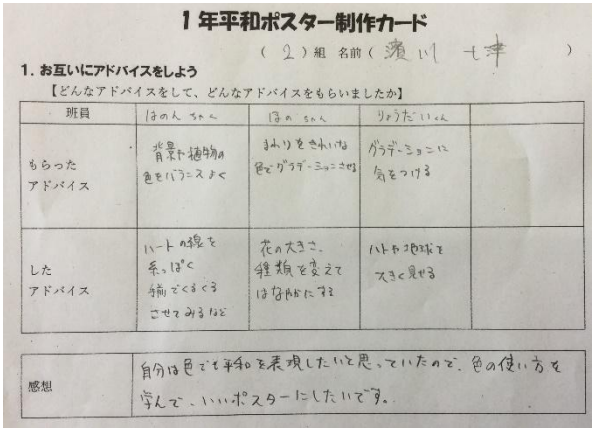
安易に人の意見に流されないよう、自分の作品の意図を 1 分で説明したあとで３分間の意見交換とした。自分の制作意図を確認させるためである。

特に 1 年生はこのような授業展開に慣れているのか、意見交換は盛り上がった。2・3 年生でもよい雰囲気で意見交換ができた。

1 年生の様子

【生徒 A】

この段階でのアドバイスタイムは、生徒が主体的に参加し、自分の考えを広げる、深めることに効果がある対話につながった。



1年平和ポスター制作カード

（ 2 ）組 名前（ 瀬川 七津 ）

1. お互いにアドバイスをしよう

【どんなアドバイスをして、どんなアドバイスをもらいましたか】

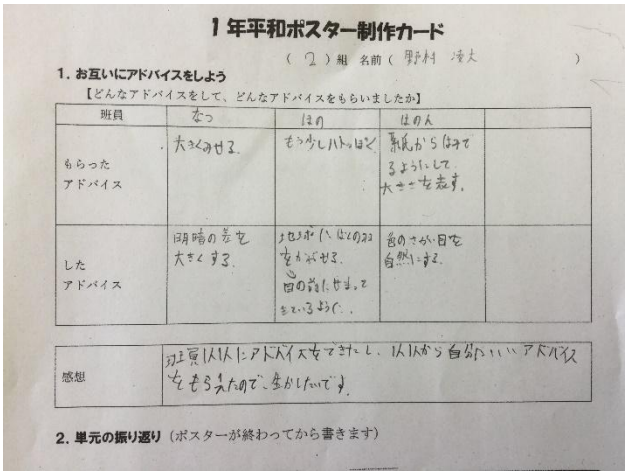
班員	ほのかちゃん	ほのちゃん	りょうだいくん	
もらったアドバイス	背景や植物の色をバランスよく	まわりをきれいな色でグラデーションさせる	グラデーションに気をつける	
したアドバイス	ハートの線を糸っぽく 輪でくるくるさせてみるなど	花の大きさ、種類を変えてはなやかにする	ハートや地球を大きく見せる	
感想	自分は色でも平和を表現したいと思っていたので、色の使い方を学んで、いいポスターにしたいです。			

上の 1 年生のワークシートでは、「背景や植物の色をバランスよく」や「周りをきれいな色でグラデーションさせる」などのアドバイスをもらい、友達に対しては「ハートの線を糸っぽく、くるくるさせる」や「花の大きさ、種類を変えて華やかに」などのアドバイスをしたことが書かれている。

そして、「自分は色でも平和を表現したいと思っていたので、色の使い方を学んでいいポスターに

したい」と書いている。完成作品では、リボンをグラデーションで表現し工夫している。

【生徒 B】



1年平和ポスター制作カード

（ 2 ）組 名前（ 野村 浩大 ）

1. お互いにアドバイスをしよう

【どんなアドバイスをして、どんなアドバイスをもらいましたか】

班員	なつ	ほの	はのん	
もらったアドバイス	大きくみせる。	もう少しハートっぽく	紙からはみでるようにして大きさを表す。	
したアドバイス	明暗の差を大きくする。	ナセボ（人びとの名）をわかせる。 白の背景にせまってきているように。	色のさが目を自然にする。	
感想	2組以外にアドバイスをできたし、以外から自分にいいアドバイスをもらえたので、生かしたいです。			

2. 単元の振り返り（ポスターが終わってから書きます）

この１年生のワークシートには「紙からはみ出るようにして大きさをあらわす」というアドバイスをもらい、完成作品ではハートを用紙からはみ出させるようにしている。

２．成果・課題・これから

【対話的な授業になったのか】

今回の取り組みは「生徒の必要に応じた話し合い」であったため、友達の意見に対して自分の意見を言いやすく、意見のキャッチボールができていた。対話が成立したといえる。

【何ができるようになったのか】

仲間からの評価で自分の作品の良い点を確認し、課題点についてはアドバイスを生かして、その克服のために技法を検討する、あるいはモチーフの組み合わせや構図などの考え方を変更するなど、「発想構想の能力」に関する発展が見られたことは力が高まったといえるのではないだろうか。

【深い学びになったのか】

「ポスターは、みる人に自分の考えを伝えるもの」なので自分だけがわかっていたらいいというような≪ひとりよがり≫な作品ではいけない、もっと多角的な見方（ほかの人から見たらどう見えるのか）が必要だ、来年度のポスターに生かそう、と考えることができたら「深い学び」へのサイクルができたと言える

【これから】

生徒たちの私語が増えるタイミングを見取ってアドバイスタイムを組み込むことをほかの単元でも生かすことができる。絵画や立体造形でも「これどう？」と人の意見が欲しくなる時がある。それを見越して授業のシラバスにアドバイスタイムを設定し、生徒に予告することで、その時間までの集中力を高めることができるだろう。

今回のようにワークシートを利用すると時間がかかるので、短時間で意見を交換する、感想を述べあう活動を組み込むことを工夫していきたい。